

2026年6月7日 聖霊降臨後第二主日礼拝説教
「魂の叫びに答えて祈れ」(ホセア5章15～6章6節)

○預言者ホセアについて

- ・紀元前8世紀、北王国の民に、神の〈みことば〉を語る。
 - ・救いと裁きの言葉をもって、人々に悔い改めを迫る。
- ⇒それでも、背き続けるイスラエルは、滅びの時を迎える。

○ホセア5章15節のみことば

「わたしは立ち去り、自分の場所に戻っていよう。彼らが罪を認めて、わたしを尋ね求め 苦しみの中で、わたしを捜し求めるまで。」

*北王国の民は、ほかの神々を求めて、背きのうちにいた。

問：神は、あなたのもとから去られていないだろうか？

○ホセアの呼びかけ(1～3節)

「さあ、我々は主のもとに帰ろう。」(1節)

*まず神が問われるのは「帰るか、帰らないか」だけ。

今日のみことば：ホセア6章3節

「我々は主を知ろう。主を知^{われわれ}ることを追^{しゅ}い求めよう。」

*知る：心と心、思いと思いを互いに深く分かり合う

「主は曙の光のように必ず現れ 降り注ぐ雨のように 大地を潤す春雨のように 我々を訪れてくださる。」(3節)

○神の御心と願い(4～6節) *エフライム：北王国を指す

「エフライムよ わたしは お前をどうしたらよいのか。」(4節)

*あなたの名に置き換えて、神の叫びに心を傾けよう。

「わたしが喜ぶのは 愛であっていけにえではなく 神を知ることであって 焼け尽くす 献げ物ではない。」(6節)

※十字架を掲げて叫ぶ〈神の呼びかけ〉に答えて生きよ。